

# 保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本律秀 編集者 有松 徹



福岡市議会 議長賞  
「約束」  
博多保育園 西嶋 早



福岡市 保育連盟 会長賞  
「力作」  
オリーブ保育園 鬼武 ユカ



福岡市長賞  
「そろったよ」  
中比恵ソレイユガーデン保育園 中村 裕美子



「それ〜!!」  
愛咲美保育園 平川 美和  
保育士会 会長賞



市民賞  
「おやまで ちょっと ひどやすみ」  
福岡リヌ公保育園 城倉 真由美



「マッリタッチ」  
光和保育園 三宮 綾華  
西日本 新聞社賞

## こどものえがお展 より

10月28日～10月31日 ヴラリアプラザ1Fゼファ

vol.127 令和3年度 2号

新型コロナウイルス及びインフルエンザ対応について・・・ 2	養成校訪問 ..... 5
コロナ禍とポストコロナにむけて ..... 2	秋の叙勲 ..... 6
九州初上陸! キッサニアが福岡へ ..... 3	新園紹介 ..... 7
今こそ「えがお」を発信 ..... 4	コラム ..... 8
	編集後記 ..... 8



# コロナウイルス及びインフルエンザ 対応について

機関紙編集委員 松枝 智子



2020年1月15日 日本で最初のコロナウイルス感染者が確認されました。数度にわたる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出された中、様々な対応に追われながらも保育園はエッセンシャルワーカーとして子どもたちへ安全・安心な保育を提供し続けています。

令和2年度は、コロナウイルスの対応ばかりに追われました。振り返ってみると、インフルエンザが流行しませんでした。例年、11月～2月頃流行しますが、私の園では子ども、保護者、職員誰一人感染者がいませんでした。初めてのことで、調べてみますと、この傾向は日本だけでなく、海外も同じで過去に例を見ないインフルエンザの少ない年だったそうです。

その反面、令和3年度は昨年インフルエンザが流行しなかった為、免疫を持つている人が少なく、流行が懸念されるという報道も出ています。コロナウイルス、インフルエンザ両方の対応を行うことが必要です。

- ・ 両方の対応を比較してみました。
- ・ マスクの着用
- ・ アルコール消毒
- ・ 人込みや繁華街への外出を避ける
- ・ 換気の徹底
- ・ ワクチンの接種

・ 十分な休養とバランスの取れた栄養摂取で免疫力を上げる 等  
ほとんど一緒です。

感染症対策に留意しながらの生活は今後も続いていきます。

たくさん子どもたちが長時間同じ空間で生活を共にする保育園です。完治後の登園に関してもコロナウイルスに関しては、保健所の指示のもとに、登園や出勤の日時が決まります。インフルエンザの場合はかかりつけの医師からの登園許可書が登園や出勤の目安になります。保護者もなかなか仕事を休めない中、解熱後すぐ預かってほしいとの相談もありますが、感染を広めない為にも私の園では、事前に学校保健安全施行規則の中の登園基準表（発症後5日及び3日を経過してから登園可）を保護者にお示しして、家庭で十分な療養期間を取っていただくようお願いしています。

インフルエンザに関しては、感染者が数人出た時点で学級閉鎖をするのが感染を広めない為には有効と言われていますが、なかなか保育園では難しいのが現状です。  
感染症対策だけではなく、保育士が常時マスクをしていることについて、（表情がわかりづらい）（口の動きが全く分からない）（声がこもる）等子どもたちのコミュニケーション力を育みたいのに、マスク越しでどの程度伝わるのか、悩みは尽きませんが、職員、家庭と連携をとり、知恵を出し合いながら保育をしていきたいと考えます。

# コロナ禍とポストコロナにむけて

機関紙編集委員 古川 保宏

令和2年4月に緊急事態宣言が発出されてから期間の延長や解除、宣言の再発出やまん延防止等重点措置への移行などを繰り返しながらこの約1年半の間、新型コロナウイルスの種々の感染防止対策に振り回されてきたように思います。

福岡県では9月30日に緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が全面解除となりました。その後全国的に患者数が激減し、それに伴って病床逼迫などの状況も改善され現在に至っています。現在の感染者減少の状態に至るまでには各園とも大変な努力を重ねられたと思います。毎日報道される感染者数に一喜一憂しながら登園する園児の健康状態に気を配り、保育室をはじめとする園内設備の消毒や保育室の定期的な換気など見えないウイルスを相手に奮闘する日々でした。

不幸にも園児や職員の中に陽性者が出た施設では更なる負担を背負う事になり担当者のストレスは倍増した事と思います。

ワクチン接種では優先接種枠を設けていただきましたが接種のための職員配置や接種後の副反応に苦しむ保育士も多くみられました。さらに年間スケジュールで予定していた種々の行事が中止となったため納得できる保育が出

来ず悔しさを味わった方も多かったように思います。

保育士をはじめとする施設運営に係る全ての方々の努力により今回の緊急事態宣言は解除されましたが、なぜ感染者が急減したかについては、まだ十分に解明されたわけではありません。ワクチン接種の効果やマスクの着用など密集・密閉・密接を避ける行動や、室内の定期的な換気、手洗い・うがいなどの感染防止対策の徹底などが考えられますが、多くの方々への感染予防・防止の意識の高まりと数々の努力が好結果を生んだと思われれます。

一方でさらに変異したウイルスの出現や感染の再拡大が起きる確率は非常に高いと警鐘を鳴らす専門家の意見も聞かれますが、このまま気を緩めずに感染防止に努めれば終息に向かう可能性も考えられ、結局明日の事は分からないという事でしょう。

私たちはこの混沌とした状況の中で今後の保育をどの様に展開して行くのかを考えなければなりません。何もわからないままコロナ禍を過ごしている子どもたちへの影響はどうなのか、いま子どもたちが求めているものは何なのか、子どもたちの将来にとって、どのような保育が必要なのか、私たちが今考える重要な課題です。

子どもたちの健やかな成長に寄り添いながら、だれもが心穏やかに安全で安心な保育を継続できる明日のために、共に前を向いて歩いて歩んで行きたいものです。



多くのテナントが出店する話題の施設の中でも、関東エリアの東京・関西エリアの甲子園に続き日本で三番目、九州初上陸となるキッズニアには、福岡市民だけでなく周辺地域からも多くの期待が集まっています。今回は、そのキッズニアの魅力と最新情報をお伝えしたいと思います。

## 九州初上陸！キッズニアが福岡へ

機関紙編集委員 古賀 圭一郎

博多区にあった青果市場の跡地に大型商業施設ができることをご存じでしょうか？「三井ショッピングパークららぽーと福岡」が今年の4月に開業します。すでに多くの地元メディアが話題にしており、オープンを待ちわびている方も多いと思います。

### ●キッズニアとは？

メキシコが発祥で、現在世界17カ国で展開している、子ども向けの職業・社会体験施設です。子どもたちは、さまざまな体験を通して楽しみながら社会のしくみを学ぶことができます。



### ●リアルな職業体験の場

キッズニアでは約100種類にも及ぶ仕事やサービスを体験でき、子どもが色々な職業を知るきっかけになります。体験で使われるユニフォームや道具は本格的なので、リアルで貴重な職業体験ができ、真剣に仕事に向き合う子どもの姿を見ることが出来ます。

### ●どんな職業があるの？

東京や甲子園のキッズニアを参考にすると、実在する企業がスポンサーとなったパビリオン（子どもたちが体験する場所）がリアルな街並みを作っています。その中には、ピザショップやベーカリー、ソフトクリームショップなど、実際に作ったものを食べる事ができる体験や、消防署や警察署、裁判所などの体験もあります。その他にも、証券会社や総合商社など、大人でもワクワクするような多くの職業体験の機会が魅力です。



### ●働くことで得られるお金

仕事をすると専用通貨「キッズ」でお給料をもらい、買い物やサービスを受ける際に使ったり、「銀行」で預金したりすることもできるそうですよ。働くことの大変さやお金に対する価値

観も学べるということ、保護者からも高い評価を受けています。

### ●「キッズニア福岡」開業はいつ？

「ららぽーと福岡」の開業予定が4月で、「キッズニア福岡」の開業は夏頃と言われています。施設の特性上、学校・教育施設の団体利用が多いそうですが、福岡でもそういった団体向けの大きな需要が見込まれています。気になる団体客の受け入れですが、開業から少し遅れて秋か冬頃を目処に平日を中心にするというので、具体的な開始時期については未定ということでした。

元気な街・福岡市をさらに盛り上げてくれそうな新たな商業施設の登場が待ち遠しいですが、子どもたちの笑顔があふれる魅力的な場がまたひとつ増えることに期待が膨らみます。

※写真は、キッズニア東京・甲子園のイメージです。



# 今年こそ「えがお」を発信

機関紙編集委員長 有松徹

昨年(令和三年)の十月二十八(三十一)日の四日間(以下、「えがお展」)が開催されました。来場者数は四日間で三六六二人となりました。一日当たりの来場者数が、去年よりも増えており、昨年度の同時期に比べ、福岡市内の人々が少しずつ動き出し始めているような印象を受けます。

新型コロナウイルスへの対策として、このえがお展も、実施方法や内容について検討がなされてきました。令和元年度までは、各保育園の手作りおもちゃを展示したり、保育士による絵本の読み聞かせを行うコーナーを設けたりもしていました。社会情勢を鑑みて、昨年度から写真展示やスライドショー、資料提供を中心に行う形にはなりましたが、今のようなどきだからこそ、市民に笑顔を届け、保育園の役割について認知してもらう必要性を主張する声もあり、今年度も継続されました。

えがお展の来場者の顔ぶれとして最も多いのは、現在園を利用している保護者やそのご家族です。次に目に留まるのはおそらく保育関係者と思われる皆様です。ご自身が担当している子どもやご自身の園の子どもの写真を見に来場されていました。そして、保育園関係者以外の参加も想像以上に得られ

ました。私は、えがお展スタッフを務めながら、来場された皆さんの様子を見て、このえがお展が担う役割について改めて考える機会を得ました。



えがお展の一つ目の役割、それは、保育施設の現利用者やそのご家族に喜んで頂き、我が子を預ける保育園の事や認可保育園のことを肯定的に捉えて頂くこと。上述のとおり、来場者の多くは認可保育園に我が子を預ける保護者やそのご家族(祖父母等)です。保護者の中には保育園を選ぶときに、保育内容よりも居住地からの距離や利便性を中心に選ばれる方も多数いらっしゃいます。また、保育園にわが子を

預けることに不安や罪悪感を覚えながら入園させられる保護者もいらっしゃいます。そのような方々に、「子どもたちは保育園を楽しんでいるのだな」と感じていただくことは、私たち保育園関係者にとって、強力な追い風となります。

えがお展の二つ目の役割は、市民に広く保育園や保育園で勤務する人々のことを知ってもらうことです。認可保育園がどのような役割を担い、保育園の中でどのような役割を担っているのかについては外から見ただけではなかなか伝わりません。えがお展は、私たちが日ごろ意識している「共感」「アタツチメント」「子どもの主体性」などについて広く理解してもらう機会でもあるような気がします。「この視点、さすが専門職だな」と思ってもらうチャンスでもあるのです。

えがお展の最後の役割ですが、私たち保育園関係者が、改めて「保育」という営みの必要性やそのための配慮について考える機会になったことです。毎日の保育において、子どもたちは幾多もの笑顔を見せてくれます。しかし、日々流れる保育の中で、私たちの心にとどめられず流れ出て行ってしまふ笑顔があるのではないのでしょうか。そんな時、写真によって時を止め、子どもたちの笑顔の理由にゆつくりと向き合うことで、大人の関わりを振り返ることができるよう気がするのです。子どもたちが笑顔でいるというこ



と、それはすなわち保育者の養護が行き届き、子どもたちの情緒の安定が図られていることの証です。そして、自分の意志に基づき、やりたいことに没頭し、それを認められることで育まれる自己肯定感の証でもあると思うのです。ご自身が撮った写真を見ながら、保育を振り返られた方はたくさんいらっしゃるのでないでしょうか。今年度は無事に開催できましたが、えがお展が今後も役割を全うしながら存続していくためには、福岡市内すべての認可保育園の意志とそこにお勤めの皆様の意志が不可欠です。日頃の保育の中でも皆さんが「面白い」「ステキだな」と感じたひと時をフレームに収めていただき、今後のえがお展に華を添えていただくことを願っています。

# 養成校訪問 機関紙編集委員 日野 充子

令和3年度養成校訪問は、訪問調査及び就職支援・相談会に福岡市、保育協会広報調査部理事及び専門委員、保育士（養成校の卒業生を含む）が市内・近郊の養成校を訪問しました。令和2年度の養成校訪問調査の結果を踏まえ、学生の意識や卒業生の動向、養成校における学生の就職支援や対策等を調査するとともに就職担当者及び学科職員と情報交換を行い、保育士不足の背景や要因を探り、保育士の人材確保に繋げるために実施、学生に対して福岡市内保育園のPRと就職支援等を行う事を目的に養成校に伺いました。コロナ禍の中ではありましたが令和3年6月8日～9月3日の期間で取り組みました。



学生の就活の状況については、コロナ禍での実習、就活の難しさはあるが、昨年と変わらないとの事。養成校側は、求人票の見方、保育制度、処遇、補助金などの指導は行っている、学生により様々ではあるが給与面など書面で確認できるところは、それ程気にしておらず、保育方針、園の雰囲気など重視する学生が多く、実習、自主実習で自分の目で見極めるよう勧めているとの事。中には幼保専門の支援プログラムのサイトを設けたり、就職支援プログラムを活用したりする養成校もありました。



新型コロナウイルス感染症の影響でONLINEが中心だった為、学生がONLINE疲れしている。実習の際も2週間の行動制限があるので、見学実習を組むのが難しいとの事。就職は人対人なので、最終的には対面が大切だが、見学先を絞り込むための入り口として、SNSやHPで情報を得ることもあるので、最新の情報を得るためにHP等の更新をお願いしたいとの声も聞かれました。



が負担を感じることもある。男性の保育士の実習の受け入れを断られることがある。以上の項目があげられました。実習生の個々の姿を観察しながら指導を行う事が望ましいとの事です。今後、養成校訪問は、認可保育園とは情報交換、保育士人材確保の為に大切な繋がりです。学生さんには、色々な園を見学して自分に合った保育園を見つけて欲しいと思います。見学や実習は、保育園を知る機会でもあり、園として対面で学生さんの事を知ることが出来る機会でもあります。保育士である前に、人としての出会いを大切にして、人材育成を心がけたいと考えます。

# 秋の叙勲受章

おめでとうございます

## 祝 瑞宝双光章



松翠保育園 園長 榎島 徹

此度叙勲に對しまして、保育協会会員の皆様にお祝いをさせていただきます。感謝して御座ります。

ます。老齡になり、ますます喜びが心の中に広がります。振り返りますと松翠保育園の成り立ちは、寺の住職であられた大聖量洲和尚が寺で日曜学校をしておりましたところ、戦争が始まり、地元の方々を支えなければならなくなりました。依つて簡易保育所を考へまして県の許可が下りましたときは戦時の真つ只中で昭和十八年の二月でした。そして同月、皇后陛下より建設のための下賜金が届けられました。寺の檀信徒の豆腐会と云う坐禅会の人々が寄付金を募り本堂の横に小さな園舎を造り、子どもたちを預かりました。『銃後の母子』を守るためです。ここが出発点となっています。

このころ日本の爆撃機『舌龍』が本堂の屋根を壊して不時着しました。丁度保育中でしたので、その時の園長及び保育士たちの苦勞話が残っています。(その一人溝口縫子保育士はのち下山門ひまわり保育園長になりました。そして叙勲を受けています。)火が出ないのが幸いでした。出ていたら箱崎一帯が燃えたでしょう。

戦後は、『産めよ増やせよ』で子どもが増えました。そして社会福祉法ができ、社会福祉法人の増園が始まりしばらくは安定

しましたが、オリンピック後、神武景氣などで所得倍増の時代に突入してから保育園経営者も増え、市と協会は設立に力を入れました。私が協会の役員の時『適正配置』の相談を受け市役所の保育課に相談に行つたことを覚えています。それは昭和五十二年頃でした。当園は昭和五十一年に宗教法人から社会福祉法人に切り変えました。昭和五十六年には天皇陛下より下賜金を頂きました。そしてこの頃からは保育園の経営は自己負担は殆ど不要になり全て国と地方の行政による運営資金で行われるようになりました。社会福祉法人の設立は審査も厳しくなっていました。

平成も終わりが近づくと頃、東京を中心に社会福祉法人だけでは待機する児童に対応できないとしてその改革が促され実行に移されたのが近年でもう六年になりました。立派な園舎も建ち、子どもたちの受け入れは万全でしたが、経営の母体が社会福祉法人から一般企業者また個人でも場所や資産運用出来れば誰にでもこの事業を認可しました。ところが、子どもは〇歳から六歳までの健やかな成長を見守る保育士が不足してきました。学校を卒業した学生の社会福祉法人の施設への就職は減り、そこへきて派遣業や紹介業が保育士を園に紹介するようになりました。しかし一般的に紹介料は保育士の年収の三十%以上を超え、法人の運営を圧迫します。

子どもを守るのが保育園の使命です。保育士もギリギリの人数での保育になると休

## 祝 瑞宝単光章



第2ひまわり保育園 主任保育士 中尾 よ

この度令和3年度秋の叙勲「瑞宝単光章」を頂きました。これも園長先生をはじめ諸先生方のお蔭と深く感謝致しております。

四十数年前、一歳の娘を連れてひまわり保育園で面接をして頂き、ご縁があつて親子共々入園することとなりました。子育て

憩もままならなくなり、就労の厳しさから行き届いた保育が出来なくなりました。今後は物の充実とお金は使える時代でしょうが、保育園も力の競争になり、『愛のある保育』が消えていくのではないかと心配します。社会福祉法人の保育園の皆様は保育士が充分に來てもらえる環境を守り、政府及び地方行政に理解を求めていくことが必要でしょう。

最後に政府は国民が依頼した司法立法行政機関なのです。国民一人ひとりが国家であります。国家である国民に、『生きるにあつて不利益が生じたとき』は心して是正を政府に求めなくてはならない。戦時中、一九四四年頃『ポージランド』の国家がナチズムに滅ぼされそうになった時、大衆が口々に『ポージランドは亡んだと呼びかけていました。その時、一人のポージランド青年が立ち上がり、『ポージランドは亡んでいない、何故ならば僕はここに居るではないか』と叫んだのである。

これは、人間一人一人が国家であることを証明した言葉である。つたない文章でしたが、思いを書きました。ありがとうございました。

をしなからの保育士の仕事は苦難の道でしたが、悩んだり落ち込んだりしていても、保育園に行くこと『せんせい、おはよう』と駆け寄って来る子どもたちのかわいい声と明るい笑顔に元氣をもらい、頑張ることができました。行事前になると、家に帰り、家事を手早く済ませ、子どもを寝かしつけてから衣装や小道具、製作の準備等を行いました。たいへんでしたが、出来上がった衣装を着て嬉しそうに踊る姿を見ると疲れも吹き飛んでしまいました。

また、近所の方々にもいろいろと助けて頂きました。今育児環境はネットの情報に頼り、情報だけが溢れて、逆に混乱していることもあります。また核家族で実家や近所付き合いも少なく孤立化してしまつていふと思ひます。更にコロナ禍での子育ての悩みも増えていると思ひます。

私はこれまで出会つたたくさんの方々と共に研修した他園の先生方、そして何よりも、不自由をかけた家族に支えられながら、三人の子どもとたくさんの方々の園児、そして孫を送り出すことができました。

これからも、地域で子育てをしていく保育士として、子どもだけではなく、親の居場所を作る存在でありたいと思ひます。結びに、ご尽力頂いた全ての方々にも重ねて感謝し、お礼申し上げます。



# NEW!! 新園紹介

## リアンかしい保育園(東区)

園長 石井克子

定員 80名

令和3年4月に「リアンかしい保育園」の姉妹園として東区香椎に開園しました社会福祉法人真祐会「リアンかしい保育園」です。

当園は福岡都市圏東部に位置し、交通の便もよく、徒歩圏内には緑豊かな香椎宮もあります。子どもたち一人ひとりが安心して遊べる環境の中で、主体的に活動にかかり、ともだちと喜び合ったり、工夫したり、挑戦したりしながらたくさん経験を重ね、健やかに成長してほしいと願っています。

スタートしたばかりの保育園ですが、子どもも、保護者も、職員もそして地域も「心のわくわくする保育園」でありたいと思っています。



## 原田COCCO保育園(東区)

園長 上野由佳

定員 60名

「原田COCCO保育園」は東区原田に令和3年4月に開園しました。

空港が近いので空を見上げると飛行機が見えて、また園の側を新幹線が通っているので、子どもたちはいつも目を輝かせて飛行機や新幹線を眺めています。園舎の中は子どもたちがワクワクするような絵本コーナーやアトリエコーナー、戸外では1階・2階の園庭で体を思いっきり動かして遊びます。

当園では異年齢保育、担当制保育、コーナー保育を取り入れており、子どもたちの自己肯定感をしっかりと育む環境を作っています。子どもも職員も毎日が楽しかったと思えるように日々を大切にしていきたいです。



## こひつじの森保育園(南区)

園長 有吉時真

定員 90名

令和3年に開園した園です。保育室は広々としており、木のぬくもりを感じる空間となっております。また、木々が広がる園庭だけでなく、園の目の前には松原運動公園もあり、環境豊かです。園生活で大切にしていることは、体に良い美味しい給食を楽しむこと、夢中になって遊ぶ時間を過ごすことです。子どもの遊びは生活そのものだからこそ、行事メインではなく一日一日を大事にし、ゆったりとした保育を目指しています。

そして、職員間のコミュニケーションも大事にしており、互いを理解し受け止め、支え合える関係づくりを心掛けています。



## 有住コスモス保育園(早良区)

園長 中島郁彦

定員 60名

福岡市早良区有住地区。地域同士のつながりが深く、あたたかみのある地域に令和3年4月に定員60名の福岡市認可保育園「有住コスモス保育園」が開園致しました。

保育士の優しい見守りと言葉かけにより、安心して生活や遊びに取り組めるような温かみのある雰囲気の実践しております。それぞれの子どもたちが「自分のペースで」「自分の能力を高めたいこと」を保育理念とし、子ども達一人一人の心が満たされるようにほんの小さなことでも笑顔で誉める・認める」といふことを忘れず子どもたちと全職員が関わっています。

安心安全な「空間」「ゆとり」のある「時間」信頼できる「仲間」。3つの「間」を確保し、いつまでも遊んでほしい保育園を目指すと共に、保護者や地域の皆様のお役に立てるよう頑張っております。



## 横手つばさ保育園(南区)

園長 塚本つた子

定員 116名

社会福祉法人ひよこのおにわ「横手つばさ保育園」は令和3年4月に南区横手に誕生しました。開園から8ヶ月、保育室や園庭からは子どもたちの元気な遊び声が溢れ、まさにひよこのおにわのようなにぎわいです。乳幼児期は人間形成の基礎が培われる最も重要な時期、私たちはこの大事な時期を一人ひとりのありのままを受け容れて見守り支えていきたいと考えています。安心して過ごせる環境の中で、一人ひとりの気持ちや発達段階を見極めながら丁寧に愛情あふれた保育を目指しています。環境を整えながら子どもたちの遊びを通して学びを支援していきたいと思えます。私たちは自分自身こそが最大の保育環境との自覚で人格を磨き、資質の向上に努めています。

無限の可能性を秘めた子どもたちを日々繰り返される生活の中で「つよく、たくたくのびのびと」育て、大きなつばさを広げて夢を持って未来へ羽ばたいていけるようにどこまでも見守り励ましていきたいと思っています。



## 南片江保育園(城南区)

園長 巖水瑠華

定員 105名

南片江保育園は本部が大部分市にごさいます社会福祉法人寿光福祉会が運営する2園目の保育園として2021年4月より南片江にて開園させていただきました。一人ひとりの個性を大切に、心身共に健やかでたくましく生きる力を育てる。当園は、園児の人間性や能力を開花させ、発達させていくと同時に、健康で明るくたくましい子どもを育てることを教育・保育方針としています。同時に日常業務と保育のICT化を積極的推進しており、連絡帳は専用のアプリを使い、乳児の体調管理には午睡チェックのセンサーを使うことで空いた時間による子どもごとのふれあい時間の増加や保育の質の向上を目指しています。

働く保育士、看護師、調理師、そして園児さんや保護者全員が笑顔になれる園を目指していきたいと考えていますのでよろしくお願ひします。



# コラム 未来予想図

あすなる保育園 園長 柿迫美穂

今日も園庭から聞こえてくる子どもたちの笑い声。一步、一步成長していく過程を間近で見守り、子どもたちからたくさん元気をもらい、多くの仲間たちに支えられて今日まで保育の道に携われていることに幸せを感じています。しかし、今世界中の人々が新型コロナウイルスの感染拡大を心配しながらの生活を余儀なくされています。保育園においても、密を避けるのがむずかしい毎日を過ごす中で、新しい生活様式を模索しています。そして、親しいからこそ、大切な人だからこそ、距離を保たねばならない状況が続き人と人がつながる幸福について、あまりにも深く考えさせられた時間でした。

さて、これから子どもたちが歩んでいく未来ですが、人類の未来を予想した「The future of work」という動画は、今まで人間が担っていたルーティンワークすべてAIロボットに委ねる世界を描いています。まさに最先端技術に学者たちが描いた未来予想図です。これらは「Society 5.0」と呼ばれる世界です。さらに「ムーンショット計画」2050年までに、複数のひとが遠隔操作

する多数のAvatarとロボットを組み合わせることで、大規模で複雑なタスクを実現するための技術を開発し、その運用等に必要の基盤を構築する。2030年までに、1つのタスクに対して、1人で10体以上のAvatarを、Avatar1体の場合と同等の速度、制度で操作できる技術を開発し、その運用等に必要の基盤を構築するというものです。

「不易流行」という言葉がありますが、「不易」はいつまでも変わらないこと。「流行」は時代々々に応じて変化すること。すなわち、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくことです。まさに、ここ最近の保育園は、新しい生活様式の中で、この「不易流行」を改めて感じる場面が多々あるように感じます。マスクをつけるの保育、ソーシャルディスタンスを意識した行事が当たり前になってしまいました。しかし、時代が変わろうと、様々な様式が最新になり、改善や改革が進んだとしても、変わってはいけないことがあると思います。それは、親が・・・あるいは子育てに携わるすべての大人たちが、子どもたち一人ひ

とりの健やかな育ちをしつかり見守り、あたたかい愛情で育てていくこと、人と人が「支えあう」ことにより生まれる思いやりの心や優しさを感じることが出来るような子育てや人育てであふれることではないかと思えます。乳幼児は、信頼のある人に愛され育まれることにより、直接感じるぬくもりに安心感を覚え、また、保育園での集団生活の様々な体験活動の中で、友だちとの関係作りや、出来るようになった時の感動などが、今後の人生の糧になると思います。「園長先生、さようなら、また明日ね」とここに顔で帰っていく子どもたち、そのすべての子どもたちが、新しい時代を切り拓く主体者として、自信と誇りを持って社会の発展に貢献できる大人に育てることは、いつの時代においても変わることのない大社会の責務だと思えます。そして、これから次世代を担う子どもたちが心豊かに生きる力をはぐくむことができるよう、子どもたちの気持ちに寄り添い、さりげない行動や会話を見逃さず、個々を大切にしながら、日々の保育に精進していきたいと思えます。

## 編集後記

今号にむけての機関紙編集委員の集まりの時点で5位、その10日後には42年ぶりの最下位が確定…。最下位になるのは、福岡の平和台球場から埼玉の所沢へ移転し西武ライオンズとなった最初の年(1979年)以来だそうで、私にとっては大事件。福岡でも、私よりもご年配の方々がライオンズを愛している方も多いでしょうから、この悲しみを共有したくて…。私が所沢市に引越したのも、この1979年で4歳の頃です。もちろん最下位になった記憶などなく、幼少期は毎年のように優勝して、勝つのが当たり前という感じでした。こちらを書いてる今日は、秋晴れの心地良い午後です。外にいくだけで気持ちいい時期ですね。やはりそんな日には、必ずと言っていいほど日本シリーズの情景を思い出しますよね。当時はまだ日本シリーズはゲームでしたし、各球場も屋根がなく、選手たちはアイフラックというシールを目の下に貼ったり、黒く塗ったりと、なんだかいつもとは違う目つきでした。よかった。平日は残念ながら学校の授業中に日本シリーズがありました。西武球場から徒歩圏内の小学校で見たから、先生たちもライオンズファンで、気になりながら授業してました。ホームランの花火が上がれば授業は中断、授業中はラジオを流しながらなんていう先生も…。そんな先生は大好きだったなあ。休み時間に笑えばすぐテレビを付けて観戦、そんな子どもたちが見る時にちょうどバク宙してホームインするのが秋山幸二のスーパースターたる所以だと学んだり。平和台球場では、隣のマンションや木の上から試合を観戦してる写真とかありますよね。あんな風景もいいですね。季節やその天候や匂い、その時に食べた味、歓声の音、外野席の芝生の感触、全てを秋晴れで思い出しました。やはり「体験を通して学びたいです。よね。」と最後に無理やり保育に関連付けてみました。来年は優勝で。

時枝亮仁(みやけ保育園)

～感想やご意見はこちらにお送りください～

【保育協会メールアドレス】kyoukai@hoiku.or.jp